

## 医師部門

受賞者： たかや ゆうぞう 高谷 雄三 (78歳)  
一般社団法人福島県医師会 会長



1969年に福島県立医科大学大学院を修了、同大学附属病院神経精神科に勤務。その後1982年に会津若松市でクリニック高谷を開業し、地域住民の診療にあたった。長年、福島県で精神科医として地域住民の医療を担う一方で、会津若松医師会長として、地域の医療施設との連携や夜間救急医療体制の強化を図ってきた。同医師会のみならず、会津地方にある4つの医師会に所属する医師との連携強化を図り、医療体制の強化など、地域における医師会の活動に精力的に取り組んだ。

2010年に福島県医師会の会長に就任してからは、全国第3位の広面積をもつ福島県の地域特性の中で、高齢化の進展や医師不足への対策など、行政と協力しながら多くの医療課題に取り組んできた。原発事故により、医療従事者の不足が顕著となった際は、率先して日本医師会、行政、関係団体と連携を図りながら県民のための地域医療・保健の確保に尽力。東日本大震災と原発事故を契機として、医療・介護の一体的サービスを図る目的で、様々な医療情報を施設間で共有できる地域医療連携ネットワークシステムを構築、運用に導いた。福島県地域医療対策協議会の委員として、県内の医療人材確保対策等への助言指導をはじめ、Aiの重要性・必要性を福島県と福島県警察本部に説き、福島県立医科大学への「死因究明センター」の整備実現など全国的に先駆的な取り組みを実現させた。

現役の医師会会長として現在も福島県を中心に精力的に活動しており、長年にわたり地域医療への貢献を果たしている。

推薦者： 横倉 義武 公益社団法人日本医師会 会長